

短角牛の誕生

現在の岩手県北部から青森県南部にかけて飼育されていた在来の牛は「南部牛」と呼ばれ、主に農耕用や荷物を運ぶための役牛として飼養されていました。明治以降は、アメリカから輸入されたシヨートホーン種と交配し品種改良が進められ、現在は純粋な南部牛は存在しませんが、その血を引き、品種改良が重ねられた末に誕生したのが日本短角種、いわゆる「短角牛」です。

平庭闘牛のルーツ

江戸時代に沿岸部で焚かれた塩は、南部牛の背に乗せられ、北上山地を越えて盛岡や鹿角などの内陸部に運ばれていました。この輸送に使われたルートは「塩の道」と呼ばれ、県内には沿岸各地と内陸、そして山間部を結ぶ塩の道が多数存在しています。輸送の際は、強い牛に従って歩く牛の習性を利用して、隊列の先頭に立つ牛（ワガサ）を決めるために行われた牛の突き合わせが、闘牛のルーツとされています。

闘牛を育てるまち

本市は、全国有数の日本短角種の産地であると同時に闘牛の育成地でもあります。そのため、平庭闘牛は、他地域と比べて若牛が中心で、負け癖がつかないよう両者優位のまま勢子が引き分けにします。平庭闘牛で経験を積んだ牛は、新潟県をはじめ全国へ渡り、南部牛の名で活躍しています。



いわて平庭高原闘牛会 勢子長

柿木 敏由貴さん

牛と心を通わせ

初めて闘牛場に立ったのは高校生の時でした。勢子の役割は、牛の様子を見ながら勝負所の見極めをすること。お互いの牛が力を出し切って良い場面が作れるよう心がけています。

平庭闘牛は負け癖がつかないよう引き分けにすめるのがルール。牛は一度痛い思いをすると、それ以降戦えなくなることがあります。人間と同様に、牛にも性格があるんです。取組みが難しく、時には、牛のそばに寄って声

をかけます。それで戦ってくれた時は本当にかわいくて仕方がない。牛と気持ちを通じることが分かるんです。

大切に育てた牛が活躍する瞬間が何より嬉しいです。じゃれ合いをする

若い牛、取り組みに迫力がある牛など、1頭1頭の特徴があるので、「推し」の牛を見つけて、場所を重ねることに成長していく姿を見てほしいです。全国闘牛サミット当日は、ぜひ会場で声を出して応援してください。

平庭闘牛

山形町平庭高原の闘牛場で行われる平庭闘牛大会は、全国6県9市町で開催されている闘牛の北限であり、東北地方唯一の闘牛大会。6月には全国の闘牛関係者が集う全国闘牛サミットが本市で開催されます。

第29回 全国闘牛サミット in 久慈大会

日時：令和8年6月14日(日)10時～13時30分
会場：平庭高原闘牛場
入場料：当日券2,000円、前売券1,500円(中学生以下無料)
問い合わせ：平庭高原闘牛会（事務局：産業建設課） ☎ 72-2129



いわて平庭高原闘牛会 会長

八重櫻 友夫さん

平庭闘牛らしさを

久慈市の闘牛は、「塩の道」の歴史を後世に伝えるもので、平成28年に市指定無形民俗文化財に指定されています。闘牛は現在、6県9市町で開催されており、開催地ごとに異なる文化を持っています。例えば、鹿児島県や沖縄県などは勝負をつけ、平庭闘牛や新潟県では引き分けで終わることを伝統としています。6月に開催される全国闘牛サミットは、生産者、闘牛オーナー、勢子、大会を運営する事務局をは

短角牛が大好きで久慈市に移住し、生産を一から学びました。短角牛専門の精肉店「短角考舎おのざわ」をオープンし、精肉店を一人で営む傍ら、勢子として闘牛場に立っています。令和5年のしらかば場所で、女性の勢子として初めて大会で手綱を握りました。同じように見える牛でも、戦い方はそれぞれ個性があるので、ぜひ会場でじっくり観戦してください。そして、牛だけでなく勢子の動きにも注目してほしいです。かっこいい勢子がたくさんいますので、「推し」の勢子が見つかるはず。現在は、闘牛レディースの一員としても活動していて、全国闘牛サミットで販売するグッズの作成に取り組んでいます。大会には、新潟県や沖縄県など、県内外から観客が集まると思っています。屋台も多く出店するのでお祭りのような会場の雰囲気と、牛同士の熱い戦いを楽しんでほしいです。

短角牛に魅せられて



いわて平庭高原闘牛会 勢子

堀江 りんさん